

経営比較分析表（令和5年度決算）

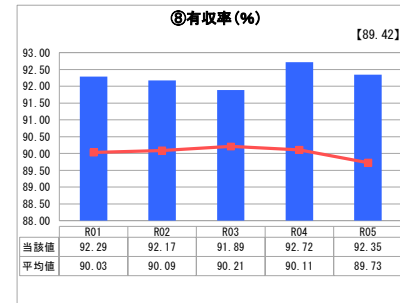
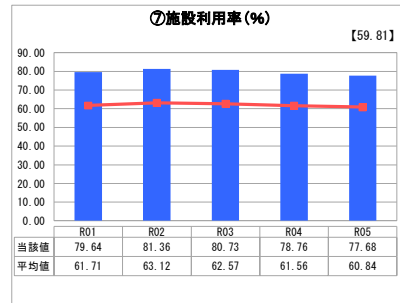
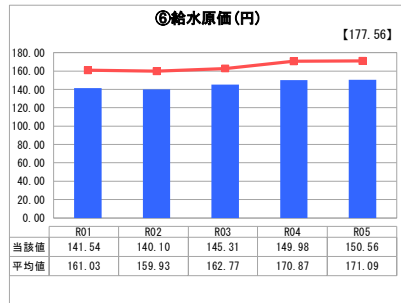
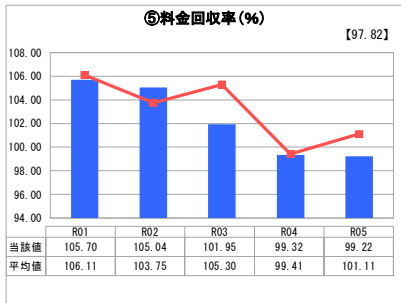
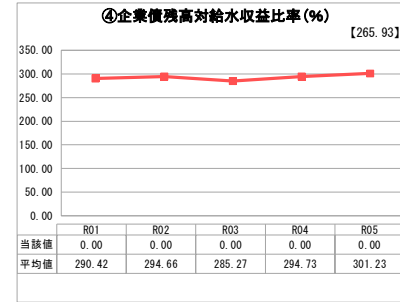
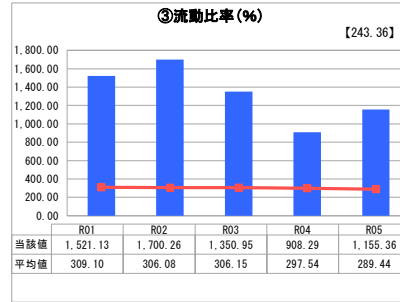
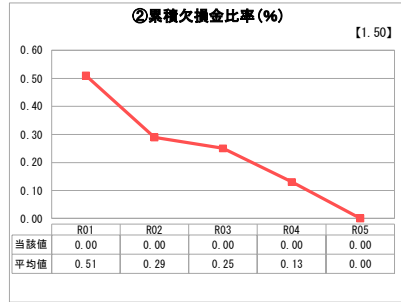
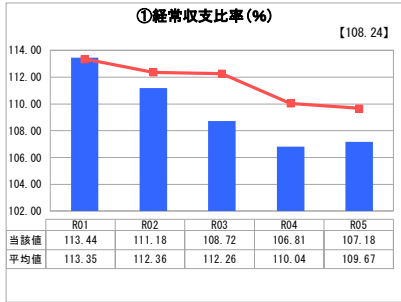
埼玉県 坂戸、鶴ヶ島水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	民間企業出身 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	98.60	99.60	2,508	

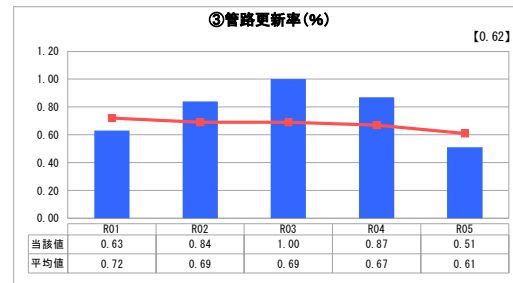
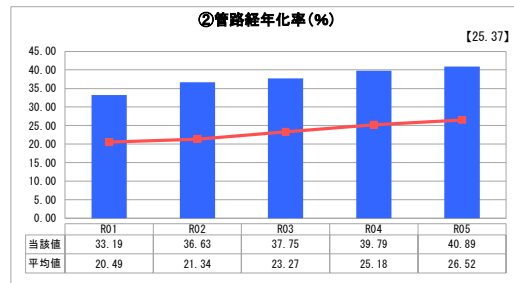
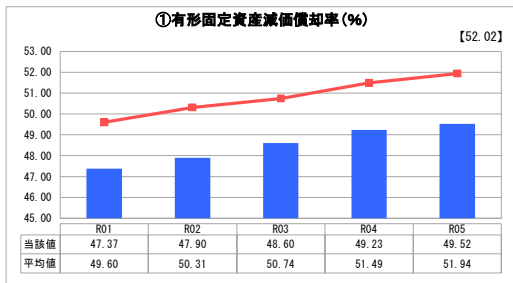
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
168,778	58.67	2,876.73

グラフ凡例	
■	当該団体の値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
修繕費や動力費の減少などにより、前年度と比較すると上昇しているが、全国平均・類似団体平均値を下回っている。しかし、100%以上の数値であり、単年度の収支が黒字で健全な経営状態である。
- ② 累積欠損金比率
欠損金が生じていないことを表している。
- ③ 流動比率
100%を超え全国平均・類似団体平均値を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払い能力は問題がない。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
企業債による外部からの借入金が無く、自己財源による経営であることを示している。
- ⑤ 料金回収率
前年度と比較すると給水原価の上昇により下降し、100%を下回っている。今後、さらなる数値の下降が予想されることから、経費の削減及び料金改定を検討する必要がある。
- ⑥ 給水原価
全国平均・類似団体平均値を下回っているが、今後施設更新等に伴う減価償却費等の増加により数値の上昇が予想される。
- ⑦ 施設利用率
全国平均・類似団体平均値を上回っており、施設を効率的に利用している。
- ⑧ 有収率
前年度と比較すると令和5年度は下降しているが、類似団体平均値を上回った状態を維持している。今後も漏水調査の継続的な実施や、老朽管の更新を計画的に進めるなど、有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
前年度と比較すると上昇しているが、類似団体平均値を下回った状態を推移している。しかし、上昇傾向にあるため計画的に償却資産の更新を行う必要がある。
- ② 管路経年率
類似団体平均値を上回った状態を推移しており、平均値の約1.5倍の数値となっている。法定耐用年数を超えた老朽管が多いことを示しており、さらなる増加が予想されることから計画的な更新をさらに積極的に進める必要がある。
- ③ 管路更新率
令和2年度から令和4年度までは類似団体平均値を上回った状態を推移していたが、令和5年度は下回った。これは令和5年度から複数年度にわたる継続事業を行っていることによるもので、年度内に工事全体が竣工していないものは集計に含まれない。引き続き配水管等の更新を計画的に実施し、管路更新率の向上に努める。

全体総括

経営の健全性・効率性については、ほとんどの指標が良好な数値を示しており、類似団体と比較すると概ね良好な経営状態であるといえる。しかし、料金回収率については100%を下回っていることから、給水に係る費用が給水収益で賄えない状態となっている。

そのため、適正な料金収入の確保に努めることが課題である。また、管路の更新をはじめとした施設の老朽化対策にも積極的に取り組む必要がある。

今後、給水人口の減少と併せて収益の減少が見込まれ、経営の健全性を維持していくことが困難になっていくと予測される。一方、更新に係る費用の増大は、財政が逼迫していく要因となるため、引き続き経費の削減に努めるとともに、効率的な事業経営に取り組む。